今週の為替相場見通し（2016年11月28日）

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		110.27 ～ 113.90	113.20	111.50 ～ 115.50
ユーロ	（ドル）		1.0518 ～ 1.0658	1.0575	1.0450 ～ 1.0850
（1ユーロ=）	（円）		117.40 ～ 120.15	119.92	118.00 ～ 123.00
英ポンド	（ドル）		1.2313 ～ 1.2514	1.2485	1.2300 ～ 1.2600
（1英ポンド=）	（円）	*	136.29 ～ 141.75	141.26	139.00 ～ 142.00
豪ドル	（ドル）		0.7311 ～ 0.7468	0.7430	0.7200 ～ 0.7600
（1豪ドル=）	（円）	*	81.14 ～ 84.62	84.29	82.00 ～ 86.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　高田　裕

（1）今週の予想レンジ：　111.50 ～ 115.50 円

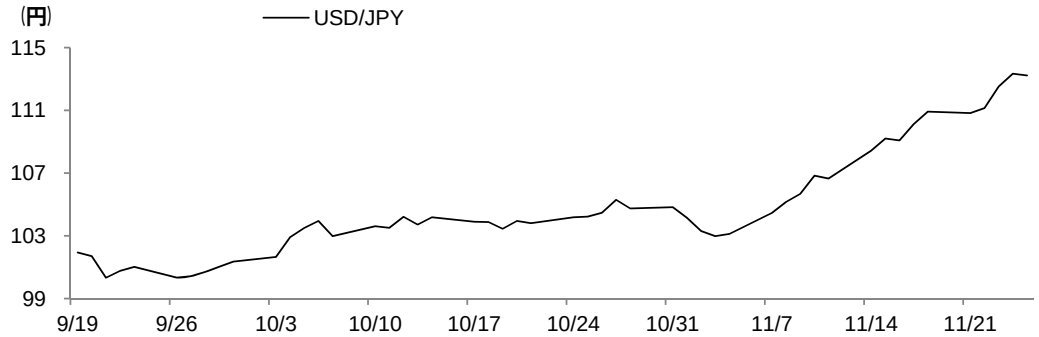
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半から上昇する展開。週初21日、110円台後半でオープンしたドル/円は、米金利低下や欧州株の軟調推移を背景に110円台半ばまで弱含む場面が見られるも、英ポンド/円の上昇や堅調な米国株を受けたドル買いから111円台前半まで上伸した。しかし22 日にかけて発生した福島県沖での地震や津波の影響を受けたリスク回避姿勢の高まりから、ドル/円は110円台前半まで急落すると、軟調な日経平均株価が意識される中、週安値となる110.27 円まで値を下げた。しかしその後は底堅い欧州株を背景にドル/円は値を戻し110 円台後半まで回復。さらに良好な米10 月中古住宅販売などを受けて米金利が上昇すると、ドル/円は111 円台前半まで値を上げた。週央23 日は、米10月耐久財受注や米11月ミシガン大学消費者マインドの良好な結果を好感すると、ドル/円は113 円近辺まで急進。さらに翌24日には、米国が感謝祭で休場となる中、ドルが買い進められ113 円台半ばまで上昇した。週末25日もドル買いの流れは止まらず、ドル/円は東京時間に週高値となる113.90円まで値を上げた。その後、米金利が伸び悩むとポジションの調整からドル/円は112円台後半まで一時下落するも、結局113円台前半で越週している。

今週のドル/円相場は引き続き底堅い展開を予想する。30日（水）のOPEC定例総会や12月2日（金）の米11月雇用統計など、重要イベントを控え神経質な相場展開が予想されるが、いずれもトランプ次期大統領の拡張的な財政政策を背景に期待感が先行する足許の株高･債券安･ドル高相場のトレンドを反転させる程の材料とは成り難いであろう。また米金融政策については12月13～14日に開催予定のFOMCにおいて政策金利の引き上げが確実視されており、ドル/円を下支えする材料となろう。市場のテーマは来年以降のFRBの利上げペースに移りつつあり、米国内で期待インフレが高まればドルが主要通貨に対して買い進められ対円でも堅調推移するであろう。ただし、トランプ次期米大統領の就任が決定した今月9日以降、マーケットの過熱感は否めなく、OPEC総会での減産もしくは増産凍結に関する合意決裂や脆弱な米雇用環境が意識されリスク回避姿勢が高まる場面があれば、一時的にドル/円相場が急落するリスクには留意したい。そのほかに予定されるイベントとしては、30日（水）に米10月個人消費、12月1日（木）に米11月ISM製造業景気指数、4日（日）にイタリアの憲法改正を問う国民投票がある。

（3）先週までの相場の推移

先週（11/21～11/25）の値動き：　安値 110.27 円　高値 113.90 円　終値 113.20 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　橋　雄史

⑴ 今週の予想レンジ：　1.0450　～ 1.0850　　118.00　～ 123.00　円

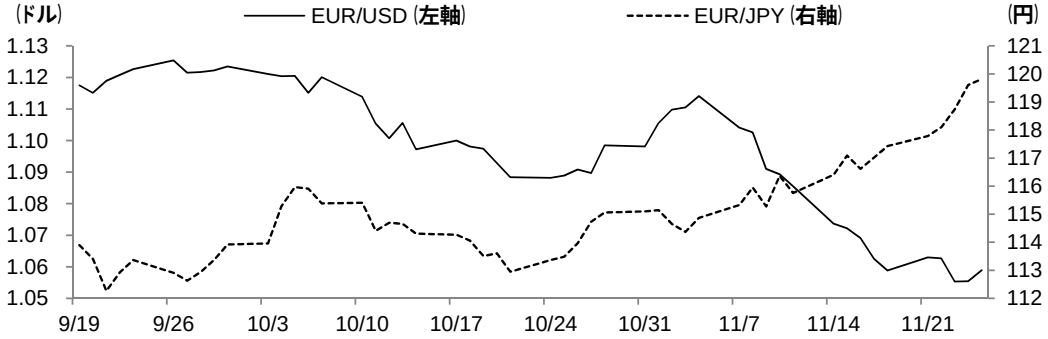
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は、週半ばにかけて年初来安値を更新するも、その後は値を戻す展開となった。週初21 日、1.05 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、1.06 台半ばまで一時上昇。しかし、ドラギECB 総裁が「金融政策による支援が今後も必要」との発言に、12月ECB 理事会における資産購入プログラム期間延長への期待が高まり、ユーロ/ドルは1.05 台後半まで下落した。その後は福島沖での地震及び津波の発生を受けて円買い･ドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.06台前半まで値を戻した。22日にかけて、ユーロ/ドルは一時週高値となる1.0658をつけたものの、米10月中古住宅販売や欧州金利低下を受け1.05台後半まで売り進められた。23日は、米10月耐久財受注や米11月ミシガン大学消費者マインドの良好な結果を好感したドル買いに、ユーロ/ドルは1.05 台前半まで続落。24 日は米国が感謝祭で休場となる中、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.0518をつけたが、引けにかけて反発した。25日も1.05台半ばで軟調な地合いが続くが、週末を前にユーロの買い戻しが入ったことで一時1.06台まで戻し、結局1.05台後半で越週した。一方対円は、週初21日に117円台半ばでオープン。米国が感謝祭を控える中でユーロの買い戻しが先行し、ユーロ/円は一時118円ちょうど近辺まで上昇。22日は前日のドラギECB総裁発言を受けてユーロが弱含む中、ユーロ/円は週安値117.40円をつけるが、海外時間にドル/円が続伸する動きにつられ、再び118円台を回復。23日は米経済指標が好調となったことでドル買いが強まる中、ユーロ/円も続伸し、一時118.99円をつける。24日は米国が感謝祭となり、流動性が低下する中でもドル買いの流れが継続。ユーロ/円はドル/円の上昇に連れ続伸し、25日には週高値120.15円を付けた後、やや値を戻すも高値圏となる119円台後半で越週した。

今週のユーロ相場は引続きダウンサイドを試す展開を予想する。為替相場はトランプ相場一色に染まっており、先週のユーロ相場もドル独歩高の影響を受け、一時年初来の安値を更新する展開を見せた。トランプ次期大統領の掲げる拡張的な財政政策などの実現性に疑問が残るのは確かであるが、実際問題として、米国においてインフレ期待の高まりから米債利回りが上昇し、FRBの断続的な利上げ期待も高まる中、米ドルが買われていることは事実である。市場がモメンタムを重視している環境下において、ユーロ相場の反発期待は薄い状況。特にユーロ/ドルは昨年11月の安値となる1.0523をブレイクした場合、次のサポートラインは2015年3月につけた1.0457となり、こちらをブレイクするとサポートラインは乏しく、ユーロ/ドルの下落は加速する可能性が高い。ファンド勢の決算は11月末に迎えるところも多く、決算前の大きなフローに注意が必要となるほか、イタリアでは12月4日（日）に上院の立法権限を制約する憲法改正の是非を問う国民投票を迎えるなど、不透明材料もある。2017年はEU圏内で総選挙も多く、政治不透明感も高まりやすいことから、ユーロ相場は売り込まれやすい地合いとなっており、今週も引続きユーロ相場が急落する展開には注意しておきたい。今週の経済指標は、29日（火）に独11月消費者物価指数（CPI、速報値）、30日（水）に11月ユーロ圏消費者物価指数（HICP、速報値）が予定されているほか、30日にはウィーンでOPEC総会が開かれる予定であり、こちらのイベントには注目しておきたい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/21～11/25）の値動き：　（対ドル）安値 1.0518　高値 1.0658　終値 1.0575
（対円）安値 117.40　高値 120.15　終値 119.92



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　野崎 一馬

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2300　～ 1.2600　　139.00　～ 142.00　**円**

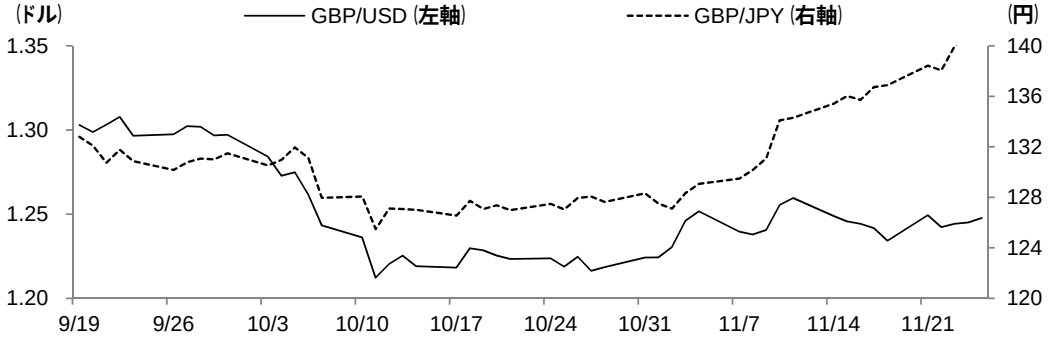
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルでは週前半に原油・株高、および対円での急上昇を受け、1.25ちょうど近辺まで上昇したが、週後半にかけては、ポンド固有の材料に乏しく、1.24台でもみ合う展開となった。主要通貨含めた相場の全体感としては、基本的にドルの独歩高、米国主導の相場展開となっており、米国大統領選挙後の米株高・金利上昇が同時発生している状況。こうしたドル高要因とみられる環境が続く中、先週のポンド相場は相応にリスクオンというテーマで小幅上昇したものとみえる。また同時に、今週英銀行協会（BBA）が発表した10月の英消費者信用残高の伸びが約10年ぶりの高い水準であったこと、住宅ローンの承認件数も5月以来の高水準となったことなども、相場を後押ししたものと思料される。一方で、11月のユーロ圏購買担当景気指数速報値の総合指数が54.1（前月53.3）と今年最高の結果となったものの、マーケットの反応は限定的だった。英国のハモンド財務相は英国のEU離脱（Brexit）決定後、初の経済見通しを発表し、”向こう5年の借入予定額をBrexit投票前の予想から1220億ポンド引き上げた”と発言があったが、これを市場はさほど楽観的には受け止めなかったことで、ポンド相場の反落要因となった。

今週の英ポンド相場は、対ドルで横ばい、その他通貨に対して小幅高を予想。英国でBrexitの明確なプランが出てくるか否かに中期的な関心はありつつも、目先では、英国特有の材料に乏しいものと思料。市場としては米国大統領選挙後から続く、足元の米株高・金利上昇の流れに変化が起きるかどうかによるところが大きいだろう。日本やEU諸国が為替の急激な変化に一定の懸念を示しながらも、自国通貨安を歓迎する本音も見え隠れする中、ドル高に対する懸念が強まる展開が高まるのは相応に時間を要すものと思われる。英経済指標では、29日（火）に英10月消費者信用残高、12月1日（木）に英11月全国住宅価格、2日（金）に英11月PMI指数などの発表が予定されるが、市場の関心は高くない。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/21～11/25）の値動き：　（対ドル）安値 1.2313　高値 1.2514　終値 1.2485
（対円）安値 136.29　高値 141.75　終値 141.26



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　西谷　鷹

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7200　～ 0.7600　　82.00　～　86.00　**円**

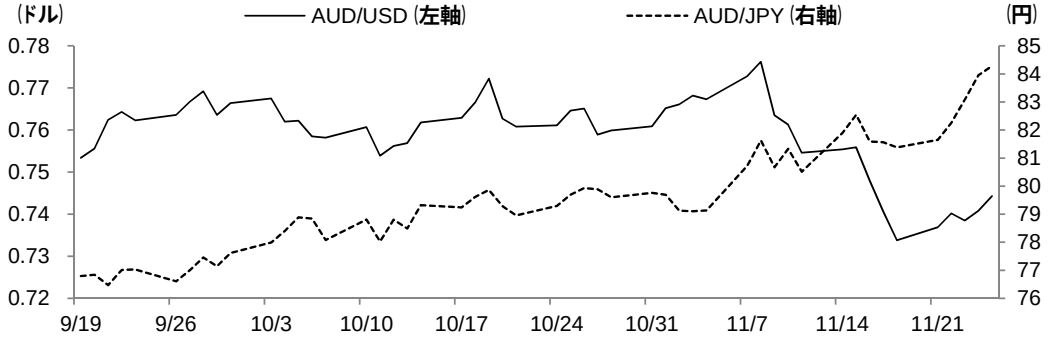
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は底堅い展開となった。週初21日に対ドル0.73台前半、対円81円台前半でオープン。豪ドルは安値圏での推移が続き、一時週安値となる0.7311をつけた。しかし海外市場に入り、ここもと続いていた米金利上昇・ドル高の流れに一服感が見られると、豪ドルは0.73台後半まで反発。22日はじり高となり、0.74台を回復した。23日も前日の流れを継続し上昇する展開。一時0.7440近辺まで上昇するも、北米時間に発表された米10月耐久財受注が市場予想を大きく上回る結果となると、全般的にドル買いが進行。豪ドルは0.7380近辺まで下落する展開となった。24日は米国が感謝祭で休日となる中、動意に乏しい展開が続き、0.74ちょうど近辺で揉み合い推移。翌25日はポジション調整の動きから一時週高値となる0.7468まで上昇する場面が見られたものの、その後はブラックフライデーということで休暇中の市場参加者も多い中、閑散としたマーケットとなった。結局、対ドル0.74台前半、対円84円台前半で越週となった。

今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想する。米大統領選後のトランプ相場が継続すると考えており、引き続き米金利上昇・ドル高を基本路線に見ていきたい。今週は米国より相次いで重要指標の発表が予定されている。特に12月2日（金）の米11月雇用統計には注目が集まる。すでに来月のFOMCにおける利上げはマーケットにおいて完全に織り込まれており、利上げ期待の高まりを背景としたドル買い余地は限定的と思われる。しかし、ここもと市場はドル買いを誘発する材料に敏感に反応する傾向があり、今週の米雇用統計で米労働市場の堅調さが確認される結果となれば、足許の市場の流れから一段とドル買いが進む可能性はあるだろう。またマーケットでは2017年以降、FRBが何回利上げを行うかに関心が高まっており、次回FOMCで発表される政策金利見通し（ドットチャート）の結果次第では、ドル買いが急速に進む可能性もある。それ以外の材料として11月30日（水）にOPEC総会が開催される。OPEC総会に先立ち、28日（月）にOPEC加盟国・非加盟国での事前協議が開かれるが、先週金曜日にサウジアラビアがその事前協議には参加しない旨を発表した。斯かる状況下、OPEC総会で減産合意に至れるかどうかは依然として不透明であり、引き続きヘッドラインなどには注意が必要だ。仮に減産合意に至った場合は豪ドル相場にとってポジティブであり、一時的な上昇が見込まれる。しかし上述の通り、足許のメイントピックスはトランプ次期米大統領の政策への期待感を背景としたトランプ相場であり、ドル堅調地合が続くと予想している。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（11/21～11/25）の値動き：　（対ドル）安値 0.7311　高値 0.7468　終値 0.7430
（対円）安値 81.14　高値 84.62　終値 84.29



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。